青森県作業療法士会　新人教育方針

会員個人のスキルアップを図るため、本会および会員所属施設における新人教育のガイドラインとする。

各種研修会についてはさらなる充実が期待される。

大目標：会長方針	中目標 ：会長方針（個人のスキルアップ）	小目標 ：会長方針（個人のスキルアップ）	達成期間	目標達成の方法	対応する生涯教育制度	目安とする受講の順序	参加者の準備	講師等の指導内容，他	学術・教育部のスタンス，他	担当部署	検証方法
作業療法を通して、対象者・クライアントの健康と自立した生活に貢献する	対象者等を適切に評価・治療できる。 社会人として、作業療法士として、働くことができる。 世の中での作業療法の位置づけがわかる。 世の中に作業療法について発信できる。	【対外交渉能力】 対象者や家族、他職種に作業療法について適切に説明できる。	免許取得後3年以内	基本的知識・技術を再確認するため、研修会・講習会・学会に参加する。 自身にとって新しい知識・技術を獲得するため、研修会・講習会・学会に参加する。	生涯教育基礎研修 ＜現職者共通研修＞ 作業療法生涯教育概論 職業倫理 日本と世界の作業療法の動向 作業療法における協業・後輩育成 保健・医療・福祉と地域支援 実践のための作業療法研究 作業療法の可能性 ＜現職者選択研修＞ 身体・精神・老年期・発達 ＜基礎ポイント研修＞ *各種研修会* 県学会・東北学会・全国学会	特になし	生涯教育の意義を理解しておく。 研修会・講習会・学会に参加する目的に沿って、基礎知識・技術を再確認しておく。	生涯教育制度に関する規定参照	受講終了証明、ポイント付与を行う。 *各種研修会の充実を図る。*	学術・教育部 各ブロック	会員所属施設ごとに達成度を判断する。
		【実践能力】 対象者等を適切に評価できる。	免許取得後3年以内								
		【実践能力】 対象者等を適切に治療できる。	免許取得後3年以内								
		【実践能力】 事例を通して、自身の作業療法を検討（事例検討）できる。 事例報告ができる。	免許取得後3年以内	事例検討の意義について理解するため、研修会に参加する。 事例検討・事例報告を自ら行う。 事例検討・事例報告を行う場を広げ、広く意見を求められる。	生涯教育基礎研修 ＜現職者共通研修＞ 事例報告と事例研究 事例検討 事例報告 ＜基礎ポイント研修＞ 県学会・東北学会・全国学会 *各種研修会* 事例報告登録制度	以下の順序 「症例検討概論」等受講 6月	事例報告登録制度の規定を受講前に熟読しておき、受講時にはそれを持参する。 受講時に事例報告に取りかかっていることが望ましい。	事例検討の意義について説明する。 事例報告登録制度について説明する。 事例報告登録制度の規定に沿った内容・書式に基づいて指導する。	事例報告登録制度の規定をOTとしてのスタンダードとする。 指導者育成のため、指導者の参加を促す。 各種研修会の充実を図る。	学術・教育部	県機関誌への投稿、協会事例報告への登録、東北学会での発表、全国学会での発表の有無を基準に、会員所属施設ごとに達成度を判断する。 査読委員への調査を行う。
						↓ 院内・有志グループ報告会での発表	事例検討・事例報告経験者の指導を受ける。 事例報告登録制度の規定に沿った内容・書式に基づいて、事例報告を作成する。	事例検討・事例報告経験者が指導する。 事例報告登録制度の規定に沿った内容・書式に基づいて指導する。 批判や指摘のみで終わらず、発表者が理解しやすい具体的な助言を与える。	事例報告登録制度の規定をOTとしてのスタンダードとする。 指導者育成のため、指導者の参加を促す。 基礎研修修了者以上が講師として指導する場合は、発表者へポイントを付与する（事例報告履修申請書の提出が必要）。		
						↓ ブロック報告会での発表	事例検討・事例報告経験者の指導を受ける。 事例報告登録制度の規定に沿った内容・書式に基づいて、事例報告を作成する報告会1週間前までに報告書を提出する。	事例検討・事例報告経験者が指導する。 提出された報告書を熟読し、当日までに指導内容を検討する。 事例報告登録制度の規定に沿った内容・書式に基づいて指導する。 批判や指摘のみで終わらず、発表者が理解しやすい具体的な助言を与える。	事例報告登録制度の規定をOTとしてのスタンダードとする。 指導者育成のため、指導者の参加を促す。 基礎研修修了者以上が講師として指導する場合は、発表者へポイントを付与する（事例報告履修申請書の提出が必要）。 ポイントが付与されれば、ブロック報告会の発表数増加が見込まれる。 一方、ブロック報告会の発表数が増加すれば、全県レベル報告会、県学会での発表数の減少が見込まれる。	各ブロック	
						↓ 全県レベル報告会での発表 11月	事例検討・事例報告経験者の指導を受ける。 事例報告登録制度の規定に沿った内容・書式に基づいて、事例報告を作成する。報告会1週間前までに報告書を提出する。 発表はパワーポイントを使用し、10分以内とする。。質疑応答は20分以内とする。	事例検討・事例報告経験者、基礎研修修了者以上が指導する。 提出された報告書を熟読し、当日までに指導内容を検討する。 事例報告登録制度の規定に沿った内容・書式に基づいて指導する。 批判や指摘のみで終わらず、発表者が理解しやすい具体的な助言を与える。	事例報告登録制度の規定をOTとしてのスタンダードとする。 指導者育成のため、指導者の参加を促す。 発表者は「事例報告」修了扱いとなる。 その他の発表者、講師へはポイントを付与する。 ブロック報告会が参加増となれば、全県レベル報告会、県学会での発表数の減少が見込まれる。	学術・教育部	
						↓ 県学会での発表 5月	事例検討・事例報告経験者、基礎研修修了者以上の指導を受ける。 （事例報告登録制度の規定に沿った内容・書式を基準にした）県学会抄録書式に基づいて、事例報告を作成する。	抄録を熟読し、当日までに指導内容を検討する。 事例報告登録制度の規定に沿った内容・書式に基づいて指導する。 批判や指摘のみで終わらず、発表者が理解しやすい具体的な助言を与える。 基礎研修修了者以上が査読する。	全県レベルの事例報告会等で発表後、エントリーすることが望ましい。 事例報告登録制度の規定をOTとしてのスタンダードとする。 指導者育成のため、指導者の参加を促す。 発表者へポイントを付与する。 抄録の査読を実施することで、「事例報告」と同等とみなされ、発表者は事例報告履修申請書の提出後、「事例報告」終了扱いとなる。	県学会	
						↓ 県機関誌への投稿・協会事例報告への登録 7月	投稿・登録経験者の指導を受ける。 事例報告登録制度の規定に沿った内容・書式に基づいて、事例報告を作成する。 同意書添付。	事例報告登録制度の規定に沿った内容・書式に基づいて査読する。 批判や指摘のみで終わらず、執筆者・指導者が理解しやすい具体的な助言を与える。	県学会または全県レベルの事例報告会で発表後、投稿・登録することが望ましい。 投稿、登録は同時進行、または、機関誌掲載後に登録の手続きをとってもよい 指導者育成のため、指導者は共著者とする。	学術・教育部	
						↓ 東北学会での発表 9月	事例検討・事例報告経験者の指導を受ける。 （事例報告登録制度の規定に沿った内容・書式を基準にした）東北学会抄録書式に基づいて、事例報告を作成する。	事例報告登録制度の規定に沿った内容・書式に基づいて指導する。 批判や指摘のみで終わらず、発表者が理解しやすい具体的な助言を与える。	県学会または全県レベルの事例報告会で発表後、エントリーすることが望ましい。 事例報告登録制度の規定をOTとしてのスタンダードとする。 指導者育成のため、指導者の参加を促す。 発表者へポイントを付与する。 抄録の査読を実施することで、「事例報告」と同等とみなされ、発表者は「事例報告」終了扱いとなる。	東北学会	
						↓ 全国学会・世界学会での発表 6月	事例検討・事例報告経験者の指導を受ける。 （事例報告登録制度の規定に沿った内容・書式を基準にした）全国学会抄録書式に基づいて、事例報告を作成する。	事例報告登録制度の規定に沿った内容・書式に基づいて指導する。 批判や指摘のみで終わらず、発表者が理解しやすい具体的な助言を与える。	県学会または全県レベルの事例報告会で発表後、エントリーすることが望ましい。 事例報告登録制度の規定をOTとしてのスタンダードとする。 指導者育成のため、指導者の参加を促す。 発表者へポイントを付与する。	協会	
	後輩育成ができる。	【対外交渉能力】 学生・新人に作業療法について適切に説明できる。	免許取得後5年以内	基本的知識・技術を再確認するため、研修会・講習会・学会に参加する。 自身にとって新しい知識・技術を獲得するため、研修会・講習会・学会に参加する。	生涯教育基礎研修 ＜現職者共通研修＞ 作業療法生涯教育概論 職業倫理 日本と世界の作業療法の動向 作業療法における協業・後輩育成 保健・医療・福祉と地域支援 実践のための作業療法研究 作業療法の可能性 事例報告と事例研究 事例検討 事例報告 ＜現職者選択研修＞ 身体・精神・老年期・発達 ＜基礎ポイント研修＞ *各種研修会* 県学会・東北学会・全国学会 事例報告登録制度	報告会や学会での発表経験後	事例検討・事例報告を経験しておく。 研修会・講習会・学会に参加する目的に沿って、基礎知識・技術を再確認しておく。	生涯教育制度に関する規定、事例報告登録制度の規定に沿った内容に基づいて指導する。	受講修了証明、ポイント付与を行う。 *各種研修会の充実を図る。*	学術・教育部 各ブロック	会員所属施設ごとに達成度を判断する。
		【指導能力】 学生・新人に自身が展開する作業療法について適切に説明できる。	免許取得後5年以内								
		【指導能力】 学生・新人に作業療法を行わせることができる。	免許取得後5年以内								
		【指導能力】 学生・新人に事例検討・事例報告を行わせることができる。	免許取得後5年以内	事例検討の意義について理解するため、研修会に参加する。 事例検討・事例報告を自ら行う。 事例検討・事例報告を行う場を広げ、広く意見を求められる。 事例検討・事例報告を指導する。							
	より高度な作業療法・後輩育成が展開できる。	【対外交渉能力・実践能力・指導能力】 より高度な作業療法・後輩育成が展開できる。	免許取得後5年以内	より高度な知識・技術を獲得するため、研修会・講習会・学会に参加する。	認定作業療法士取得研修 ＜認定作業療法士共通研修＞ 管理運営・教育法・研究法 ＜認定作業療法士選択研修＞ 身体・精神・老年期・発達	特になし	生涯教育の意義を理解しておく。 研修会・講習会・学会に参加する目的に沿って、基礎知識・技術を再確認しておく。			協会	会員所属施設ごとに達成度を判断する。
				より高度な知識・技術を獲得するため、研修会・講習会・学会に参加する。	専門作業療法士取得研修	特になし	生涯教育の意義を理解しておく。 研修会・講習会・学会に参加する目的に沿って、基礎知識・技術を再確認しておく。				